

クラブ愛知賞受賞団体一覧

	年度	受賞団体		活動内容
第1回	2013年度	国際協力サークルSEED		<p>『フェアトレードの普及活動』</p> <p>フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」のことをいう。</p> <p>国際協力サークル「SEED」は、「お買い物でできる国際協力」をモットーとしフェアトレードの普及活動に力を入れており、主な活動内容として、学内の生協店舗でのフェアトレード商品販売、フリーペーパーの発行、愛大祭での出店などをおこなっている。</p> <p>学外でのイベントにも積極的に参加し、JICA 等の他団体との交流も行うなど、更なる知識探究と本学の名を高める活動は大いに評価できるものである。</p>
第2回	2014年度	愛大防犯POLICE		<p>『中村区を中心とした防犯活動』</p> <p>名古屋キャンパスのある中村区を中心に活動しており、中村警察署と連携して、防犯広報活動を積極的に展開している。</p> <p>主に、空き巣対策、振り込め詐欺被害防止、カメラ設置重点地区防犯抑止、下校児童の見守りなどに取り組み、この活動は二度にわたり中日新聞にも掲載され、愛知大学の学生の質の高さや地域貢献活動への取り組みを広くアピールしている。</p>
第3回	2015年度	Aivo		<p>『児童養護施設訪問・バルーンアート』</p> <p>2013年2月から、週に1回、4人1グループで、定期的に施設(中日青葉学園[日進市])を訪問し、子ども達と遊ぶボランティアを、継続的に行って来ました。</p> <p>2014年度からは、子ども達に喜んでもらう1つの手段として、バルーンアートを習得し、バルーンアートを通して、子ども達を笑顔にしようと取り組んでいます。2015年度においては、児童養護施設でのイベントはもとより、地域の行事・イベント等にも積極的に参加し、バルーンアートのブースを出展しています</p>
第4回	2016年度	名古屋図書館学生サポーター「トッポ」		<p>『「学生力」を活かした図書館の活性化』</p> <p>名古屋図書館学生サポーター「トッポ」は、2013年に愛知大学図書館の活性化と学生の視点を取り入れた図書館づくりを目指し創設されました。「企画展示」や「図書館バーチャルツアービデオ」の作成、「ブックパーティ」等を行い、図書館利用者が快適で利便性の高い図書館と感じるような仕掛けづくりを行っています。活動は図書館内にとどまらず、学内の図書掲示づくりに携わったり、他大学図書館の学生団体と積極的に交流し、本学でのこれまでの取り組みを学外に広めています。2015年度からは毎年30,000名以上を動員する図書館業界最大のイベント「図書館総合展」のポスターセッションに名古屋図書館と共同で出展したり、フォーラムでプレゼンテーションを行うなどして大学図書館内における学生協働の意義と有用性を他大学に広めています。</p>
第5回	2017年度	Johner. Volunteer.		<p>『地域社会貢献・清掃活動』</p> <p>1つが、大学から名古屋駅近くまでの「清掃活動」で、有志の学生が集まり、名古屋校舎が開校した2012年5月から行っていた清掃活動について、2012年12月に「Johner. Volunteer.」として、正式に大学にクラブ登録し、約5年9か月の長期間に渡り、毎週1回休み時間を使い、清掃活動を行って来ました。もう一つは、「学内寄付活動」で、身近にできる社会貢献活動の一環として、同クラブが発足した2012年12月頃に開始しました。衣類を中心とした寄付品を、1年間で段ボール約50個相当集め、それらは、全て、季節、性別、年齢等により、仕分け等を行った上で、NPO・生活困窮者支援団体に届けており、「これほどの規模で寄付いただける学校は、他にない」と、非常に喜ばれています。</p>
第6回	2018年度	愛知大学名古屋教職サークル		<p>『子どもの未来応援プロジェクト「一人親家庭の子どもたちへのケア・学習支援」』</p> <p>教育において貧困が大きな問題となる中、特に教育格差が生まれやすいシングルマザー家庭の自立支援を展開している非営利団体とタイアップして、ボランティア活動を実施している。シングルマザーのシェアハウスに週2回訪問し、学習指導等のケアを行う他、季節行事では、夏のバーベキュー大会や冬のクリスマス会などにはシェアハウスの子どもたちだけでなく30組もの一人親家庭の親子が参加している。平成29年度に活動を開始して以来、延べ400名以上の学生が参加し、子どもたちからは「お兄さんやお姉さんと勉強したり遊べるのが楽しい。」「大きくなったら、愛知大学に入りたい」などの嬉しい声が寄せられている。教育格差が子どもの進学等に影響を及ぼすとされており、こうした学習支援活動等により、学習の必要性や大学進学という進路を知ることにもなり、また、社会の多様性を学ぶことにもつながり、子どもたちの未来への夢を大きく育むものとなっている。</p>

第7回	2019年度	名古屋市大学生消防団 (愛知大学分団)		<p>『地域の防災力向上に貢献』 2017年度に発足し、今日に至るまで、多くの地域防災活動に協力参加してきました。2018年度は愛知県下に数多くの大学分団の代表として大学生消防団長として任命を受けました。その後、本年度も名古屋市内角小学校の教職員、郵便局職員、名古屋市民、他大学の学生を対象に救命入門コース、普通救命講習I、消火器指導、AED、講習などを精力的に行ってきました。防火防災の啓発・消防団の広報にも努め、各種イベントにも参加してきました。部員は平日頃様々な講習を受講し、日々の地道ながんばりがあってこそ今の活躍があります。大学生消防団は特別職(非常勤)の地方公務員のも該当し、地域防災活動支援を活発にするためには、今後ますます大学生、若者の力が求められると思います。</p>
第8回	2020年度	コロナのため受賞団体選定なし		
第9回	2021年度	エコビジネス研究会 (eco B・G)		<p>エコビジネス研究会は、ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを贈る活動をしています。 2013年に発足後、名古屋キャンパス内での回収の他、近隣小学校や近隣住民の方々にも、ご寄付頂きながら、ペットボトルキャップを回収しています。 名古屋キャンパス内では、多くの学生が目にも留まるよう、各階のゴミ箱の上に回収箱を設置し、ペットボトルを捨てる際に、キャップも回収できるようにしています。 ペットボトルキャップの回収は、隔週1回または、月1回行います。回収箱が各階に設置されていることもあり、回収には、半日近くかかります。重く、大変な作業ですが、部員が一丸となり、活動に取り組んでいます。 集まったペットボトルキャップは、リサイクル業者(エコポリス/名古屋市区)へ持込み、そこから「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付されます。 回収個数が30万個に到達した2015年には、中日新聞に掲載いただきました。その後、2016年52万個、2017年56万個と、前年度の回収個数を大幅に上回り、3年連続で、中日新聞に掲載いただきました。その後、コロナ禍もあり、回収個数は減少傾向にありましたが、地域の方々の協力や学生の地道な活動の成果により、2021年には、44万個のペットボトルキャップを回収し、4年振りに、四度、中日新聞に掲載いただきました。</p>
第10回	2022年度	地域政策学部戸田ゼミナール		<p>『軽トラ市の普及による地方商店街の活性化活動』 軽トラ市は、人口が減少して維持することが困難な地域商店街を活性化する方法として、2005年に岩手県雫石町から始まって全国100か所に及んでいる。中部地域では、愛知県新城市の軽トラ市が全国3大軽トラ市(岩手県雫石町、愛知県新城市、宮崎県川南町)の一つとして活発な活動を続けている。戸田ゼミでは、新城軽トラ市を主な対象として、調査や実施協力を行ってきた。特に、推薦者がセンター長を務める三遠南信地域連携研究センターとの協働活動が多く、8年以上学生達の調査研究活動を行ってきた。 2022年度は、8月に中京テレビ「24時間テレビ」での「ささしま軽トラ市(1日目)」、「新城軽トラ市(2日目)」への協力や来街者への調査を行い、その様子は「24時間テレビ」で放送された。また、10月には長野県長野市篠ノ井地区で実施した全国軽トラ市での「全国軽トラ市シンポジウム(1日目)」の実施支援、全国の軽トラ市関係者が集まる「全国軽トラ市(2日)」での軽トラ市についてのプレゼンテーションを行った。これらは日本自動車工業会とも連携しており、前者は日本自動車工業会から中継・録画放映されている。また、スズキ株式会社の鈴木社長、ダイハツ工業株式会社の奥平社長等へのプレゼンテーションも行い、愛知大学生として対外的な活動を行った。さらに、11月にはスズキ株式会社との共同研究として、軽トラックを連結する空間モデルを作成し、新城軽トラ市において社会実験を行った。これらは地元新聞でも紹介されており、学生活動と民間企業コラボレーションの成果を示しつつある。その他、ゼミ生は東海地域の軽トラ市の調査を続けており、今後、企業との共同活動、卒業論文等を通してその成果を出していく予定である。こうした活動は、最終的に学生個人の地域を良くしようという情熱に支えらえるものであり、奨励の機会を頂ければ、ゼミ生個人、ゼミ全体の励みになると考えられる。</p>